人権教育に関する特色ある実践事例

| 基準の観点 | 協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例 |
|---|---|

## １．基本情報

**○都道府県名及び市町村名**

沖縄県

**○学校名**

沖縄県立名護高等学校

**○学校のＵＲＬ**

http://www.nago-h.open.ed.jp

## ２．学校紹介

**○学級数**

【通常の学級】各学年８学級　【合計】２４学級

**○児童生徒数**

【全生徒数】９６１人（平成２４年１１月１日現在）
（内訳：１年生３２０人、２年生３２１人、３年生３２０人）

**○学校の教育目標、人権教育に関する目標など**

【学校教育目標】
生命を尊び、平和を希求するとともに真理を探究する個性的、人間性豊かな生徒の育成を図る。

**○人権教育にかかる取組の全体概要**

（１）組織・校内体制
〈人権委員会〉教頭・教育相談係・養護教諭で構成されており、個人の悩みに関する相談や人権教育の啓発を目的とする。毎月 10 日を人権の日とし、カウンセリング通信を発行し、全校生徒に配布。通信の裏面には人権やカウンセリングに関する新聞記事を掲載し、「NIE の取組」を行っている。
（２）全体計画・年間計画（人権に関する各部の取組抜粋）

| | | | |
|---|---|---|---|
| ４月 | 復帰 40 周年の取組 | 10 月 | 薬物乱用防止教室 |
| ５月 | 「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」実施 | 11 月 | 人権教育職員研修 |
| | | 12 月 | ＡＩＤＳ特設授業 |
| ６月 | 平和について統一ＬＨＲ | ２月 | ＤＶ出前講座（３学年対象） |
| ７月 | ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ職員研修 | | |
| ８月 | 特別支援教育職員研修 | | |

## ３．特色ある実践事例の内容

◆国語表現におけるＮＩＥを用いた人権教育の取組

（取組のねらい、目的）

国語表現におけるＮＩＥを用いた人権教育の取組を通して、生徒が当事者意識を持って思考することで、社会に対する興味関心を高め、課題解決に向けての思考力・判断力・表現力を育みたいと考えた。

（取組を始めたきっかけ）

新学習指導要領では全教科を貫いて教育活動を発展する中での「言語活動の充実」が謳われ、「課題解決のための思考力・判断力・表現力」の育成が求められている。そこで身近にある新聞という媒体を通して国語表現における言語活動の充実を図り、課題解決のための思考力・判断力・表現力を高めたいと考えた。７月に人権教育指導者養成研修に参加し、その課題について学んだ。今回注目したのは、「人権が侵害されている状態を感知して、それを許せないとする感覚」（人権教育の指導の在り方について〔第三次とりまとめ〕）の育成である。次世代を担う高校生が新聞を読むことで社会に対する興味・関心を高め、現代社会の抱える問題や世の中の矛盾に焦点を当て、自ら解決するための方策を考える姿勢や当事者意識を育成したいと考えた。生徒に人権教育の啓発を行う上でもＮＩＥの取組は有効であると考えた。「人権課題」にはいじめや虐待など子どもを取り巻く深刻な問題が多い。そこで去年から実施しているＮＩＥに加え、国語表現の中で人権教育の視点からのアプローチを実践した。

（取組の内容）

（１）スクラップリレー→１学期に実施

（２）人権教育の視点からの取組内容→１学期から実施

平和の詩、男女共同参画の標語、元従軍慰安婦の記事、戦争の後遺症と精神疾患との関係性の記事、オスプレイの記事、ＪＩＣＡ国際理解中学生・高校生のエッセイコンテストなど。新聞の切り抜きを用いて小論文の取組や詩やエッセイは過去の受賞作品を提示し、生徒が主体的に考えるよう促した。

（３）スクラップノートの作成→夏休みの課題（進路に関するテーマについて収集）

（４）新聞コンクール→２学期に実施（一番気になる記事について取り組む）

（５）新聞ツイッター→２学期に実施

①班を作り各自が気になる記事を１つ選ぶ。②班内で各自が選んだ記事について理由を述べ合い、ランク付けを行う。③模造紙に記事を貼り付け、記事に対するコメントを記入する。④各班が作成したポスターを見て回り、付箋紙にコメント（ツイッター）を記入し貼り付けていく。（伊平屋村立伊平屋小学校佐久間洋教諭の実践事例を参考）

新聞ツイッターは班内のリレーションや言語活動の内容も多く、生徒達が積極的に活動した。第１回目は「気になる記事について」をテーマにしたが毎回テーマを決めることにした。さらに第２回目からは１時間目に新聞ツイッターを作成し、２時間目は作成したポスターを用いてプレゼンテーションをさせた。３時間目はテーマを個人でふり返る小論文を書かせた。さらに４時間目に自己評価や他者評価を行

い、全４時間で設定した。新聞ツイッターで取り組んだテーマ：「気になる記事」「オスプレイ」「いじめ」「外交」次回は「虐待」について行う予定。

（６）人権教育に関する実践授業（国語表現Ⅰ）

人権課題「子ども」主題名「いじめについて」対象生徒：３年８組国語表現選択者２４名

①ねらい

「いじめ」について深く考えることで人権感覚や人権意識を高め、高校生の立場で主体的にその解決に向けての方策を話し合うことで当事者意識を持たせる。

②教材の目標

・他者の表現や発表を自己の表現に役立て、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとすること（関心・意欲・態度）

・相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために妥当性を判断しながら話し合うこと（話す能力・聞く能力）〔内容（１）イ〕

・文や文章の組み立て、語句の意味などを理解し、語彙を豊かにしようとすること（知識・理解）

③取り上げる言語活動と教材

言語活動：グループで課題に応じた話し合いや発表をすること

④具体的な評価規準

| 関心・意欲・態度 | 話す能力・聞く能力 | 知識・理解 |
|---|---|---|
| 他者の表現や発表を自己の表現に役立て、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。 | 相手の立場や異なる意見を尊重して課題を解決するために妥当性を判断しながら話し合おうとしている。 | 文や文章の組み立て、語句の意味などを理解し、語彙を豊かにしようとしている。 |

⑤本時の指導

（１）本時の目標

・各班のプレゼンテーションを通して「いじめ」について考え、問題解決に向けて主体的にその方策について考える。

（２）本時の展開（４時間設定の２時間目）

| | 学習活動 | 人権に関わる留意点 | 具体的評価規準と評価方法 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>５<br>分 | ①人権課題「子ども」を指導者が読み上げる<br>＊前回の班に分かれる | ・いじめが人権侵害であることを認識させる。 | |
| 展開<br>40<br>分 | ①前時に作成した新聞ツイッターに対する他者からのコメントを読み、ワークシートに各自の考えをまとめ、班内で相互に意見や発表の内容を話し合う。<br>②各班が作成した新聞ツイッターを用いてプレゼンテーションを行う。<br>（４分×６班）<br>＊班の全員が発表できるよう班内で時間配分をする。 | ・自己の考えに他者の視点を加え、人権感覚を高める。<br>・いじめの背景や周囲の関わり方などについて考えを深め、その解決策を高校生の立場で述べ当事者意識を持たせる。<br>・自他を尊重する態度を育てる。 | 〔評価規準〕<br>相手の考えを踏まえて、自分の考えを説明したり、妥当性を判断しながら話し合っている。(話す能力・聞く能力)<br>〔評価方法〕<br>・行動の観察<br>・記述の確認<br>【Ｃの生徒への指導の手当て】多少の時間オーバーを認め、全員が発表できるように促す。その際メモを読むだけでもよしとする。 |
| まとめ<br>５<br>分 | ①指導者が各班への称讃と改善点を述べる。<br>②次時の予告と資料「いじめの特集の記事」を配布。 | ・自尊感情を高め、人権感覚の向上に繋げさせる。<br>・いじめを受けた方の記事を読みいじめを解決せずにはいられないとする意識を高めさせる。 | |

## ４．実践事例の実績、実施による効果

（取組の実績）

前年度に引き続き、ＮＩＥを実施してきた。５月（１回目）と１０月（２回目）のアンケートによると「新聞に目を通しているか」について「はい」と答えたのが18%から58%に増えた。

「ＮＩＥの取組でどんな力をつけたいか」については１位が「読解力」２位が「書

く力・自分の意志を持つ・社会に対する関心」であったが実践後では「どんな力がついたか」について１位が「読解力」２位が「書く力」３位が「まとめる力」４位が「社会に対する興味・関心」となっており、生徒自身は達成感を得られたようだ。生徒は他者の良い点から学び自己に活かすという学び合いの姿勢が出てきた。多くの生徒が感想の中で「自分の意見と相手の意見を比較することで様々な視点で考えることが出来た。」や「自分の意見を相手に明確に伝わるように工夫することが大切だとわかった。」など他者との交流による学習の効果を述べていた。それにより、生徒相互の「思考力・判断力・表現力」が高まる相乗効果が生まれたと考えられる。

一学期から人権教育に関するテーマについてＮＩＥのあらゆる方法を用いて取り組んできた。

生徒自身が新聞を読むことで、社会に対する興味・関心が高まり、課題解決に向けて主体的に考える、当事者意識は育成されつつある。実践後のアンケートによると「国語表現の授業を通して人権に対する意識や感覚が高まったか」に対し、「はい」と答えたのが91%、「どちらでもない」と答えたのが９%。「人権課題に対する関心が高まったか。」に対し、「はい」が96%、「どちらでもない」が４%であった。生徒自身も「人権感覚」や「人権意識」の向上を実感出来ているようだ。「自他を尊重する精神」は生徒の心の中に息づいている。常に問題提起をすることで高校生の立場で考え、主張する「健全な批判力」も備わってきていることを実感した。

## ５．実践事例についての評価

（１）ＮＩＥの取組が以下の受賞につながった

・平成23年度「いっしょに読もう新聞コンクール」日本新聞協会奨励賞　２名

・沖縄県ＮＩＥ推進協議会奨励賞　１名

・平成24年度「男女共同参画標語コンテスト」最優秀賞　１名（名護市主催）

（２）継続課題として

・論理的に表現する力の育成と客観的なデータのよる検証

・ＮＩＥや人権教育に関する継続的な実践と教科の枠を超えた体制づくり

**【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】**

| 沖縄県立名護高等学校 |
| --- |
| 全教育活動を通じて行う人権教育だからこそ、それぞれの実践が、どのような目標やねらいの下に行われているのかを明確に意識し、指導上の工夫等を行うことが大切である。<br>本事例の「国語表現におけるＮＩＥを用いた取組」は、社会に対する興味関心を高め、課題解決に向けての思考力・判断力・表現力を育成することが、ねらいとして明確に掲げられている。<br>「いじめ」は子どもの人権を侵害する重大な問題である。本事例のように、個別の人権課題に関する学習を進める際には、偏見や差別を受けている当事者の存在を意識し、十分な配慮をもって指導に当たる必要がある。例えば、生徒の中から「いじめられる側にも問題がある」等の誤った考えが出された場合には、必ず指導を行い正しい方向に導くのが教員の役割である。本事例からは、このような配慮事項を再確認する機会を得ることができる。 |